砂防技術分野　提出書類の様式

**一般研究（新規・継続課題）**

＜内容＞

* 別紙砂防-I 応募・審査書類申請票
* 様式砂防-1 砂防技術分野　応募様式（その１）
* 様式砂防-2 砂防技術分野　応募様式（その２）
* 様式砂防-3 砂防技術分野　応募様式（その３）
* 様式砂防-4 技術研究開発年次計画・経費の見込み
* 様式砂防-5 研究年度（令和〇年度）の必要経費概算
* 様式砂防-6 研究者データ
* 様式砂防-7 研究概要・成果の要旨
* 様式砂防-8 河川砂防技術研究開発【成果概要】
* 様式砂防-9 河川砂防技術研究開発制度　成果レポート
* 別紙砂防-II 技術研究開発年次計画・経費の見込み(記入例)
* 別紙砂防-III 研究者データ(記入例)
* 別紙砂防-IV 成果レポート等作成要領
* 別紙砂防-V 様式作成にあたっての留意事項

＜注意事項＞

* 応募・審査書類は、日本語で作成して下さい。指定した枚数を超えることや枠をはみだして作成することは認めません。また、文字の大きさについても読みやすい文字の大きさとして下さい。該当する記載内容がない項目には「無し」等と記入して下さい。
* 提出内容にもれがないこと、また、別紙砂防-V「様式作成にあたっての留意事項」を確認の上、提出して下さい。
* 研究年度（令和〇年度）などの○には適宜数字を記載して下さい。
* 事務局から受理した旨をメールにて送信します。提出後7日経っても受理メールが来ない場合は、お手数ですが事務局へご連絡願います。
* 令和8年度以降に継続する際に、新たな項目や内容について提出頂く場合があります。
* 応募時は別紙砂防-I及び様式砂防-1～砂防-6を、研究成果は様式砂防-7～砂防-9を記載し、提出して下さい。
* 電子データ１部(wordデータ等) を提出願います。
* 令和8年度以降、継続する場合、原則として初年度提出した様式を加筆・更新して提出してください。ただし、採択されたテーマについては、評価委員会による中間評価（複数年度にわたる場合）を実施します。中間評価の結果、研究目的の達成が困難であると判断されたものについては本制度による技術研究開発を終了します。
* 令和7年度以降、応募段階で共同研究者や所属する機関等を変更する場合は、前年度提出した様式を加筆・更新して提出してください。ただし、研究年度内において変更する場合には、別途指示する様式の提出が必要となります。

別紙砂防-I

応募・審査書類申請票

応募書類受理番号（事務局で記載：　　　　　　　　　）

研究テーマ名:

令和　　年　　月　　日

法人名：

代表者名：

所在地：〒000-0000　○○県○○市…

研究代表者：所属

　　　　　　役職名

　　　　　　氏名

　　　　　　住所　　〒000-0000　○○県○○市…　　（勤務先・自宅）

　　　　　　TEL

　　　　　　FAX

　　　　　　E-Mail

応募書類チェックリスト

　　□応募書類の電子データ　１部

　　□法人の概要、研究開発に係る事業部、研究所等の組織、事業内容、研究内容等が確認できるホームページ公開アドレス

ホームページで確認できない場合は、ＰＤＦ等で１部

※別紙砂防-I「応募・審査書類申請票」は、下線部分について記載して下さい（下線は消去可）。

様式砂防-1

※採択された場合は①～⑧は公表することを前提としています。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **砂防技術分野公募　応募様式（その１）** | | | | |
| ①技術研究開発課題 | （R7）斜面崩壊・土石流発生場から河川領域に渡る流域の河床変動解析手法の研究開発 | | *担当課*  *（担当課長名） 【事務局記載】* | *事務局記載欄*  *●●●*  *（課長：●●●）* |
| ②技術研究開発テーマ名 | （例）　○○の実用化に関する技術研究開発 | |
| ③研究代表者 | 氏名 |  | 役職名 |  |
| 専門分野 |  |
| 所属機関  （勤務先） |  | | |
| ④研究開発の概要（２００字程度） | 例：本研究開発では、●●において、●●な●●の開発と、それを用いた●●を確立する。具体的には、●●の実態と●●の解明及び●●に基づく●●を実施し、実用化に際して必要となる●●を取得する。  （注）分かりやすい記載内容とすることに努め、過度に専門用語等を用いないようご留意ください。  【研究期間：令和７～○年度　　　研究費総額：約○○百万円】（評価時点） | | | |
| ⑤研究開発の背景・課題 | 【背景・課題】  ○○技術の現状と課題を記載して下さい。 | | | |
| ⑥研究開発の  目的・目標  （アウトプット指標、アウトカム指標） | 【アウトプット】  例：映像を●●Gfps以上のリアルタイムで作業者に提示する技術の開発  　例：準備から図の復元までの時間を●分とする自動復元技術の開発  【アウトカム】  　例：作業者人数・作業時間の●％の削減、及び人材教育コストの半減  　例：施工の●割の合理化、発注者が行う検査の●分の合理化 | | | |
| ⑦必要性、効率性、有効性等の観点からの評価 | 【必要性】  　例：●●に多い変状として、●●がある。この要因として、●●が指摘されている。●●の低減のためには、●●することが肝要であり、●●に優れた●●の開発が必要不可欠であると考えられる。  【効率性】  例：研究代表者及び共同研究者は、●●について多くの実績を有すると共に、●●の経験も豊富である。また使用するデータの提供についても●●から了承を得ている。このことから、効率的な研究を実施できる体制を有していると考えられる。  【有効性】※研究成果がどのように砂防行政実務に生かされるのかの観点を入れてください。  　例：●●が行えることで、●●の短縮、あるいは適切な●●が可能となり、●●につながる。また、●●が可能となり、●●が働くことで、●●な社会資本の整備につながる。さらに、●●での●●が可能になると考えられる。 | | | |
| *⑧外部評価の結果*  *【事務局記載】* | *例：●●において、●●という視点とそのための●●な手法を提案している点に●●性が認められる。また、●●の面で、実現できれば効果のある技術であると考えられる。実施にあたっては、●●が必要であり、●●も含めた●●性の検討が望まれる。*  *＜外部評価委員会委員一覧＞（令和　　年　　月　　日、○○委員会）*  *委 員 長 　●● ●● （●●大学 ●●学部 ●●学科 教授）*  *副委員長 　●● ●● （●●大学 ●●研究所 教授）*  *委 員 　　 ●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *〃 　　　　●● ●● （●●大学 ●●学部 ●●学科 教授）*  *〃 　　　　●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *〃 　　　　●● ●● （●●大学 ●●学部 ●●学科 教授）*  *〃　　　　 ●● ●● （●●大学 ●●研究所 教授）*  *●●委員　 ●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *※詳細は、国土技術政策総合研究所HP＞政策評価＞●●分科会＞報告書を参照*  *（*[*http://www.nilim.go.jp/・・・・・・・・・・*](http://www.nilim.go.jp/・・・・・・・・・・)*）* | | | |

様式砂防-2

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **砂防技術分野公募　応募様式（その２）** | | | |
| ⑨技術研究開発計画 | 技術研究開発の目標を達成するために、どのような研究を行うのか、具体的かつ詳細に記載して下さい。また、様式砂防-4「技術研究開発年次計画・経費の見込み」とも研究項目名等の整合を図ると共に、経費の使途についても記載して下さい。  ※最終年は当該年度単年度の達成目標とともに、研究期間全体での達成目標についても総括的に記載してください。  ※３枚以内とします。 | | |
|  | 達成目標 | 実施内容 |
| 1  年  目 |  |  |
| 2  年  目 |  |  |
| 3  年  目 |  |  |

様式砂防-3

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **砂防技術分野公募　応募様式（その３）** | | | |
| ⑩技術研究開発実施体制 | 適正な人員配置による実施体制であることを図示などによりわかりやすく説明してください。  ⑨「技術研究開発計画」や⑪「共同研究者」、様式砂防-4「技術研究開発年次計画・経費の見込み」とも研究項目名等の整合を図り記載して下さい。 | | |
| ⑪共同研究者 | 氏　　名 | 所属機関・役職 | 研究分担内容 |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

様式砂防-4

技術研究開発年次計画・経費の見込み

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式砂防-1「②技術研究開発テーマ名」を記載してください

※別紙砂防-IIの記入例を参考に記入してください。

単位：千円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | 令和○年度 | 令和○年度 | 令和○年度 | 経費の総額 |
|  |  |  |  |  |
| 1. 直接費 |  |  |  |  |
| 1. 諸経費（上限（①×30%）） |  |  |  |  |
| 消費税 |  |  |  |  |
| 合　計 |  |  |  |  |
| うち外注費 |  |  |  |  |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい。

注２)また、研究年度の欄については様式砂防-5の金額と整合をとるよう注意して下さい

注３)①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

注４)経費の総額が、応募分野の研究費用負担限度額を超えていないことを確認して下さい。

様式砂防-5

研究年度（令和○年度）の必要経費概算

研究に必要な経費の概算額を｢委託研究処理科目区分表｣に定める科目区分に従って、記載して下さい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項　　　目 | 金額（千円） | 積　算　内　訳 |
| ①人件費 |  |  |
| ②諸謝金 |  |  |
| ③旅費交通費 |  |  |
| ④庁　　　費   1. 備品費 2. 借料及び損料 3. 印刷製本費 4. 賃金 5. 会議費 6. 外注費 7. その他 |  |  |
| ⑤直　接　費  （①＋②＋③＋④） |  |  |
| ⑥諸　経　費  （上限（⑤×30%）） |  |  |
| ⑦小　　　計  （⑤＋⑥） |  |  |
| ⑧消費税相当額  （⑦×0.08） |  |  |
| 合　　　　計  （⑦＋⑧） |  |  |

※１　本様式は、研究年度（応募書類申請時の翌年度）の必要経費のみについて作成して下さい。

※２　⑦小計では、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、調整を行って下さい。

※３　消費税相当額については、契約日時点での消費税率に従うものとします。

※４　外注費については、調査、試験、実験、計算、製作など、内容が分かるように記載してください。

※５　採択された課題については、必要経費について詳細な内訳を提出していただきます。

委託研究処理科目区分表

|  |  |
| --- | --- |
| 科目区分 | 内　訳 |
| 直接費 | 委託研究に直接必要な人件費、諸謝金、旅費交通費、庁費である。 |
| 人件費 | 委託研究に直接従事する技術者（大学の招聘研究者、公益法人の職員又は民間会社の社員）及び所属機関の研究を支援するための職員等の人件費を積み上げ計上する。  　ただし、国または地方公共団体からの交付金等で職員の人件費を負担している法人（国立大学法人、独立行政法人等）の職員は計上できない。 |
| 諸謝金 | 委託研究に直接協力する者に対する報酬若しくは謝金で、時間数、人数及び回数を計上する。 |
| 旅費交通費 | 委託研究に直接従事する技術者および直接協力する者の調査並びに会議等の出席に要する費用で、旅行先を記し、人数及び回数を計上する。 |
| 庁費 | 委託研究に必要な次の（1）～（7）の項目について計上する。 |
| （1）備品費 | １点５０，０００円以上かつ長期の反復使用に耐える物品を、品目毎に積み上げ計上する。  　ただし、携帯電話、スマートフォン、タブレット及びデジタルカメラについては、上記に係わらず備品費として積み上げ計上する。  ※備品は、原則、本委託研究終了後に委託者（国土技術政策総合研究所）へ返還することになります。 |
| （2）借料及び損料 | 借り上げ機器等毎に、使用数量及び使用日時数に応じて積み上げ計上する。 |
| （3）印刷製本費 | 成果品となる報告書および資料等毎に積み上げ計上する。 |
| （4）賃金 | 委託研究に直接従事する非常勤職員（アルバイト等）の雇用に要する費用について積み上げ計上する。 |
| （5）会議費 | 会場借り上げ等の費用について、使用回数、使用時間に応じて積み上げ計上する。 |
| （6）外注費 | 調査、試験、実験、計算、製作、その他役務等を専門業者に再委託する場合は、委託項目毎に一式計上する。  本制度においては、内部再委託は認められない。内部において必要となる人件費は、契約における研究従事者として登録して計上すること。 |
| （7）その他 | 上記に該当しない経費で、費目毎に積み上げ計上する。(消耗品費等) |
| 諸経費 | 委託研究処理に必要な経費のうち直接費以外の諸経費について計上する。諸経費は、直接費×諸経費率(30%)を上限とする。ただし、研究者の所属する機関において規定等がある場合は、30%を上限に研究者の所属する機関において定められた方法により計上することができる。 |

様式砂防-6

研　究　者　デ　ー　タ

※別紙砂防-IIIを参考に記入して下さい。

※研究に参加する人数分の様式（様式砂防-6）を作成下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな  氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
|  | 年　　月　　日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名  （勤務先） |  | 部署名 |  |
| 職　　名 |  |
| 連絡先 | （〒　　　－　　　　） | | TEL： |
| FAX： |
| E-mail： |

３．最終学歴

|  |
| --- |
|  |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
|  |  |  |

様式砂防-6

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
|  |  |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) |  |
| ・特許等取得件数：　　　　　件  　特許件名  ・研究成果： | |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額  （単位：百万円） | 研究期間 |
|  |  |  |  |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。  
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

研究代表者あるいは共同研究者　氏名

様式砂防-7

研究概要・成果の要旨

|  |
| --- |
| 技術研究開発テーマ：  技術研究開発代表者：　氏　名（所属） |

【研究概要】（200文字程度。この部分の記述は、中間評価・事後評価を公表する際に、評価コメントと併せてホームページで公開します）〔１行４０文字です。５行程度を目安に記載してください。〕

【成果の要旨】

* 本資料は、一ページで作成してください。また、中間・事後評価の重要な判断材料となりますので、ポイントを整理し箇条書きなどにより簡潔な表現とし、必要に応じてポンチ絵や図表などを用いて記述して下さい。

様式砂防-8

※①～⑯は公開することを前提としています。

**河川砂防技術研究開発【成果概要】**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **①研究代表者** | | | | **氏　名**（ふりがな） | | | **所　属** | | | **役　職** |
|  | | |  | | |  |
| **②技術研究**  **開発テーマ** | | 名称 | |  | | | | | | |
| **③研究経費**（単位：万円）  ※端数切り捨て。 | | | | 令和 年度 | | 令和 年度 | | 令和 年度 | 総 合 計 | |
| 万円 | | 万円 | | 万円 | 万円 | |
| **④研究者氏名** | | | （研究代表者以外の研究者の氏名、所属・役職を記入下さい。なお、記入欄が足りない場合は適宜追加下さい。） | | | | | | | |
| 氏 名 | | | | | 所属・役職（※令和　年3月31日現在） | | | | | |
|  | | | | |  | | | | | |
|  | | | | |  | | | | | |
|  | | | | |  | | | | | |
| ***担当課***  ***（担当課長名）***  ***【事務局記載】*** | | | | *○○○○○○○○○○○○○○○*  *（課長：○○ ○○）* | | | | | | |
| **⑤研究開発の概要(200字程度)** | | | | 例：本研究開発では、●●において、●●な●●を開発するとともに、それを用いた●●を確立した。具体的には、●●の実態と●●の解明及び●●に基づく●●を実施し、実用化に際して必要となる●●を取得した。  【研究期間：令和○○～○○年度　　　研究費総額：約○○百万円】 | | | | | | |
| **⑥研究開発の背景・課題** | | | | 【背景・課題】  ○○技術の現状と課題を記載して下さい。 | | | | | | |
| **⑦研究開発の**  **目的・目標**  **（アウトプット指標、アウトカム指標）** | | | | 【アウトプット】  例：映像を●●Gfps以上のリアルタイムで作業者に提示する技術の開発  　例：準備から図の復元までの時間を●分とする自動復元技術の開発  【アウトカム】  　例：作業者人数・作業時間の●％の削減、及び人材教育コストの半減  　例：施工の●割の合理化、発注者が行う検査の●分の合理化 | | | | | | |
| **⑧必要性、効率性、有効性等の観点からの評価** | | | | 【必要性】  　例：●●に多い変状として、●●がある。この要因として、●●が指摘されている。●●に優れた●●の開発は、●●の面における社会的・経済的意義があった。  【効率性】  例：研究代表者及び共同研究者は、●●について多くの実績を有しており、また使用するデータの提供についても事前に●●から了承を得ていたことから、効率的な研究を実施することができた。  【有効性】※研究成果がどのように砂防行政実務に生かされるのかの観点を入れてください。  　例：●●を●●し、●●の開発、●●の開発を実現しており、概ね目標を達成しているが、一部●●の改良が残されている。なお、実用化、市場化については、●●を行うことで可能となる。 | | | | | | |
| ***⑨外部評価の結果***  ***【事務局記載】*** | | | | *例：●●において、●●な手法が開発できた点に●●性が認められる。今後は、●●が必要であり、●●も含めた●●の検討が望まれる。*  *＜外部評価委員会委員一覧＞（令和　　年　　月　　日、○○委員会）*  *委 員 長 　●● ●● （●●大学 ●●学部 ●●学科 教授）*  *副委員長 　●● ●● （●●大学 ●●研究所 教授）*  *委 員 　　 ●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *〃 　　　　●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *〃 　　　　●● ●● （●●大学 ●●学部 ●●学科 教授）*  *●●委員　 ●● ●● （●●大学 ●●教授）*  *※詳細は、国土技術政策総合研究所HP＞政策評価＞●●分科会＞報告書を参照*  *（*[*http://www.nilim.go.jp/*](http://www.nilim.go.jp/)*・・・・・・・・・・）* | | | | | | |
| ***⑩総合評価***  ***※事後評価のみ***  ***【事務局記載】*** | | | | *Ａ　十分に目標を達成できた　　　　　　Ｂ　概ね目標を達成できた*  *Ｃ　あまり目標を達成できなかった　Ｄ　ほとんど目標を達成できなかった* | | | | | | |
| **⑪研究成果**  （具体的にかつ明確に記入下さい。4ページ程度。） | | | | | | | | | |
| **⑫研究成果の発表状況・予定**  （本研究の成果について、論文や学会への投稿等又はその予定があれば記入して下さい。）（以下記入例）  ・これまでに発表した代表的な論文  ・著書（教科書、学会妙録、講演要旨は除く）  ・国際会議、学会等における発表状況  ・主要雑誌・新聞等への成果発表  ・学術誌へ投稿中の論文（掲載が決定しているものに限る）  ・研究開発成果としての事業化、製品化などの普及状況  ・企業とのタイアップ状況  ・特許など、知的財産権の取得状況  ・技術研究開発成果による受賞、表彰等 | | | | | | | | | |
| **⑬研究成果の社会への情報発信**  （ウェブ、マスメディア、公開イベント等による研究成果の情報発信について記入下さい。ウェブについてはURL、新聞掲載は新聞名、掲載日等、公開イベントは実施日、テーマ、参加者数等を記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **⑭表彰、受賞歴**  （単なる成果発表は⑫⑬に記載して下さい。大臣賞、学会等の技術開発賞、優秀賞等を記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **⑮研究の今後の課題・展望等**  （研究目的の進捗状況・達成状況や得られた研究成果を踏まえ、研究の更なる発展や砂防政策の質の向上への貢献等に向けた、研究の今後の課題・展望等を具体的に記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **⑯研究成果の河川砂防行政への反映**  （本研究で得られた研究成果の実務への反映等、砂防政策の質の向上への貢献について具体的かつ明確に記入下さい。） | | | | | | | | | |
| **⑰特許など知的財産権の取得状況・予定【非公表】**  （研究に関連する特許等の取得又は予定、あるいは公表を控えるべき研究成果（公開前の特許等）があれば記入してください。） | | | | | | | | | |
| **⑱中間評価で指摘を受けた事項への対応状況【非公表】**  ・１年目終了時の指摘事項と対応状況  ・２年目終了時の指摘事項と対応状況 | | | | | | | | | |
| **⑲自己評価（中間評価の場合）【非公表】**  ※本自己評価は、報告書とともに、評価の重要な判断材料となりますので、その理由を含めてわかりやすく記入して下さい。  【1年目】  **Ⅰ．技術研究開発の進捗状況**  ・研究開発の目的、目標を計画通り達成するため、研究開発が適切に進捗しているか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究成果の見通し**  ・計画通りの研究成果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究成果の導入、活用可能性**  ・研究成果を砂防行政へ導入、活用することが可能であるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  【2年目】  **Ⅰ．技術研究開発の進捗状況**  ・研究開発の目的、目標を計画通り達成するため、研究開発が適切に進捗しているか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究成果の見通し**  ・計画通りの研究成果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究成果の導入、活用可能性**  ・研究成果を砂防行政へ導入、活用することが可能であるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に） | | | | | | | | | |
| **⑳自己評価（事後評価の場合）【非公表】**  ※本自己評価は、成果レポートあるいは報告書とともに、評価の重要な判断材料となりますので、その理由を含めてわかりやすく記入して下さい。  **Ⅰ．目標達成度について**  ・当初の目標を達成することができたか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅱ．技術研究開発計画について**  ・技術研究開発計画、経費、技術研究開発体制等の計画が適切であったか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **Ⅲ．技術研究開発成果について**  **(1)技術革新性**  ・学術的研究及び特許等に係る技術の応用・改良等をもって、既存の技術に比べて相当程度の技術革新を推進することができたか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に）  **(2) 導入可能性**  ・技術研究開発の成果が幅広く普及することにより、砂防行政のみならず、国民生活、経済活動への波及効果が期待できるか。  【コメント】（２００字以内で簡潔に） | | | | | | | | | |
| **㉑本制度に対する意見等【非公表】**  （本制度に対する意見、要望や研究遂行上に生じた問題点及びその解決方法等について記入下さい。） | | | | | | | | | |

【様式砂防-9】

**河川砂防技術研究開発制度**

**成果レポート**

**研究テーマ**

**○○○○○○○○○○○○○○○○○○**

**○○○○○○○○○○○○○○○○○○**

**研究代表者： ○○○○大学教授　　○○　○○**

**共同研究者： △△△△大学教授　　△△　△△**

**□□□□大学教授　　□□　□□**

**令和○年３月**

**国土技術政策総合研究所**

※本成果レポートの作成にあたっては、別紙砂防-IV成果レポート等作成要領に従ってください。

※継続課題（最終年度）：レポート枚数は５０ページ程度（2カ年は３０ページ程度）を目安としてください。

目次　＜原稿作成例＞

研究概要・成果の要旨（様式砂防-7を挿入）

第１章　はじめに 1

１．１　ページ 1

１．２　見出し XX

１．３　数式および数学記号 XX

１．４　図表 XX

１．５　参考文献の引用とリスト XX

第２章　国内・海外の既存研究状況 XX

２．１　○○○○○○○○ XX

２．２　○○○○○○○○ XX

第３章　○○に関する挙動調査実験 XX

３．１　○○○○○○○○ XX

３．２　○○○○○○○○ XX

第４章　実験結果から得られた所見 XX

４．１　○○○○○○○○ XX

４．２　○○○○○○○○ XX

第５章　まとめ（今後の砂防政策への提案など） XX

５．１　○○○○○○○○ XX

５．２　○○○○○○○○ XX

参照 XX

付録　実験全データなど XX

**第１章　はじめに**

1.1　ページ

(1) 本文部分のレイアウトとフォント

　本文は2段組で，上辺19 mm，下辺24 mm，左右のマージンは 20 mm ずつ，段と段との間のスペースは約 6 mm とします．

　本文には明朝体 10 pt フォントを用いて下さい．

(2) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページをつけて下さい．

(3) 脚注および注

　脚注や注はできるだけ避けて下さい．本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

1.2　見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

(1) 見出しのレベル

見出しのレベルは**章**，**節**，**項**の3段階までとします．**章**の見出しはゴシック体とし，**第○章**に続けて書きます．また，見出しの上下にスペースを空けます．

(2) 節の見出し

　節の見出しもゴシック体で，**○.○**などの括弧付き数字を付けます．また，見出しの上下にスペースを空けます．このファイルのサンプルから分かるように，上を2行，下を1行程度空けて下さい．ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい．

(3) 項の見出し

　項の見出しは，**a)**など、括弧付きアルファベットを付け，上下には特にスペースを空けません．項より下位の見出しは用いないで下さい．

1.3　数式および数学記号

　数式や数学記号は次の式 (1a)

 (1a)

 (1b)

のように本文と独立している場合でも， のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します．数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません．

　数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします．

1.4　図表

(1) 図表の位置

　図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめたりしてはいけません．また，図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい．図表の横幅は，「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします．図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい．図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にします．

(2) 図表中の文字およびキャプション

　図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい．特にキャプションの大きさ (9pt)より小さくならないようにして下さい．

　長いキャプションは表-1 のようにインデントして折り返します．

1.5　参考文献の引用とリスト

　参考文献は出現順に番号を振り，その引用箇所でこのように1)上付き右括弧付き数字で指示します．参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し，脚注にはしないで下さい．

表-1 表のキャプションは表の上に置く．このように長いときはインデントして折り返す．

|  |
| --- |
| 資料番号　　　 高さ *h* (m) 　　　幅 *w*(m) |
| 1　　　　　1.45　　　　　 0.25  2　　　　　1.75　　　　　 0.40  3　　　　　1.90　　　　　 0.65 |

ケース2

ケース１

図-2 図のキャプションは図の下に置く

参考文献

1) 本間　仁，安芸皓一：物部水理学，pp. 430-463，岩波書店，1962.

2) 中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」，2010.

3) Shepard, F. P. and Inman, D. L. : Nearshore water circulation related to bottom topogrphy and wave refraction, *Trans*. *AGU*., Vol. 31, No. 2, 1950.

4) C. R. ワイリー（富久泰明訳）: 工学数学（上）, pp. 123-140,   
ブレイン図書, 1973.

5) Smith, W., et al. : Cellular phone positioning and travel times estimates, Proc. of 8th ITS World Congress, CD-ROM, 2000.

(土木学会論文集の完成版下印刷用和文原稿作成例を

基本に作成）

別紙砂防-II

技術研究開発年次計画・経費の見込み(記入例)

（研究テーマ名：　　　　　　　　　　　　　　）

（　　）に様式砂防-1「②技術研究開発テーマ名」を記載してください

* 技術研究開発期間がR7年度から３年間の場合の例（研究項目１-１、２-１を外注する場合）

単位：千円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 研究項目 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | 経費の総額 |
| （１）・・・に関する技術研究開発  （１-１）・・・の測定  （２）・・・に関する技術研究開発  （2-1）・・・の解析 | ・・・の開発  6,000  ・・・データ整備  1,200 | ・・・の検証  1,200   * ・・の検討   6,000 | ・・・の開発  2,000   * ・・の開発   5,200 | 6,000  1,200  2,000  1,200  6,000  5,200 |
| 1. 直接費 | 7,200 | 7,200 | 7,200 | 21,600 |
| 1. 諸経費（上限（①×30%）） | 2,060 | 2,060 | 2,060 | 6,180 |
| 消費税 | 740 | 740 | 740 | 2,220 |
| 合　計 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 30,000 |
| うち外注費 | （1-1）・・の測定（2,500）  （2-1）・・の解析  （500） | （0） | （0） | （3,000） |

注１）研究の一部を研究代表者（または共同研究者）の所属機関以外で実施（外注）する場合は、各研究項目における外注の範囲、予算規模が明確に分かるよう区分して下さい（上記例の研究項目（1-1）、（2-1）を参照し、研究項目（１）及び（２）の計画額のうち、外注額を下欄括弧内に記入して下さい。）

注２)また、研究年度の欄については様式砂防-5の金額と整合をとるよう注意して下さい。

注３）①直接費と②諸経費の合計金額は、千円単位（千円未満は切り捨て処理）となるよう、適宜、諸経費で調整を行って下さい。

注４)経費の総額が、応募分野の研究費用負担限度額を超えていないことを確認して下さい。

別紙砂防-III

研　究　者　デ　ー　タ（ 記 入 例 ）

※研究に参加する人数分の様式（様式砂防-6）を作成下さい。

１．氏名・生年月日

|  |  |
| --- | --- |
| ふりがな  氏　　　名 | 生年月日（西暦） |
| こくど　たろう  国土　太郎 | １９○○年○月○○日 |

２．（所属機関がある場合）所属機関名・部署名・職名・連絡先

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 所属機関名  （勤務先） | ○○大学 | 部署名 | 工学部　建設工学科 |
| 職　　名 | 准教授 |
| 連絡先 | （〒○○○－○○○○）  東京都港区○○５－３－２ | | TEL：０３-○○○○-○○○○ |
| FAX：０３-○○○○-１２３４ |
| E-mail：t.kokudo@oo.ｊｐ |

３．最終学歴

|  |
| --- |
| ○○○大学大学院　○○研究科博士前期課程○○工学専攻修了（修士）  ○○大学　○○学部○○工学科卒業（学士） |

４．研究歴（主な職歴と研究内容）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 年　月 | 職　歴 | 研究内容 |
| ２００○．４  ２０○○．８ | ○○大学助手  ○○大学准教授 | ○○河川における○○の特性に関する研究  ○○○○検証研究 |

５．受賞歴、表彰歴

|  |  |
| --- | --- |
| 年　月 | 受賞名・内容 |
| ２０○○．８ | ○○学会「○○技術研究賞」 |

６．研究成果等

　・主な研究論文及び著書

|  |  |
| --- | --- |
| 1) | ○○河川における○○の特性に関する研究報告（19○○～20○○年）○○学会○○論文報告集 |
| ・特許等取得件数：　０　　件  　特許件名  ・研究成果：研究報告「○○に関する調査報告、○○県」２０○○年５月 | |

７．他の競争的資金制度、補助金等からの助成の有無

（財団法人の研究助成事業等、国以外が行っている助成制度も含む。）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 研究制度名 | 研究開発課題名 | 研究資金の額  （単位：百万円） | 研究期間 |
| ○○制度  （△△省） | ○○に関する研究開発 | △△ | Ｈ○○～Ｈ○○ |

８．研究活動における不正行為への対応状況確認

①　国土交通省の策定した「研究活動の不正行為への対応指針（平成２７年６月２日改正）」の第４章の１.研究活動における不正行為の未然防止及び２.研究機関における規程・体制の整備及び公表について、以下の該当する全ての項目にチェックしてください。（規程等は、契約締結時又は採択決定時に提出いただきます。）

□所属する研究機関は、不正行為を未然に防止する観点から、コンプライアンス（法令遵守）に関する規範において、研究活動における不正行為を行わない旨の研究倫理に関する規程を定めている。

□所属する研究機関は、研究倫理教育等研究活動における不正行為の未然防止のための組織的な取組を実施している。

□所属する研究機関は、研究活動における不正行為の疑惑が生じたときの調査手続きや方法等に関する規程や仕組み・体制等を適切に整備し、その状況について内外に公表している。

□所属する研究機関は、上記項目のいずれも実施していない。

　（理由を記載：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

②□申請者は、研究資金（他府省の競争的資金等含む）で、不正使用、不正受給又は不正行為を行ったとして、研究年度に「その交付の対象としないこと」とされていません。  
（上記に該当する場合は、□にチェックしてください。）

研究代表者あるいは共同研究者　氏名　　　　国土　太郎

別紙砂防-IV

成果レポート等作成要領

１．目的

本公募において採択されたテーマ（以下、「研究課題」という。）は、国土技術政策総合研究所との契約手続きを経て、実施することとしています。契約期間の工期末に納品される成果物に関して、必要な事項を定めることにより、研究課題の目的達成度や研究成果等を適切に把握し、研究成果の砂防等の政策への反映見込み等を明らかにすることを目的とします。

２．提出書類の様式等

各研究課題の研究代表者は、以下の提出書類を作成下さい。提出部数は印刷物２部、電子データ１式（CD-R等）を基本とします。但し、契約時に国土技術政策総合研究所の指示に従って下さい。

書類作成にあたって、文字サイズ・フォント等の指定が様式に無い場合は、見やすい文字サイズ（10P以上）、フォント（MSゴシック、MS明朝等）等で該当欄のスペースに収まるように記入し、用紙の追加は必要な場合を除き避けて下さい（「報告書」の頁数は制限なし。）。電子媒体（CD-R等）を提出する際には、ウイルス対策を実施した上で提出して下さい。また、ウイルスチェックソフトは常に最新データに更新（アップデート）して下さい。

なお、様式砂防-9は公表予定となっています。

●「報告書」

研究成果について研究目的から技術研究開発に至る結果を簡潔にとりまとめて作成し、文字及び図表は分かりやすく仕上げ、特に図表については当該位置づけを明確にして下さい。Ａ４判で製本して下さい。

●「成果レポート」（最終年のみ）【様式砂防-9】

　これまでに提出された委託研究成果品（報告書等）を基に研究期間中に実施した研究内容について様式砂防-9を用い50頁程度（研究期間が３カ年以上の場合、2カ年の場合は30頁程度）までの総括研究レポートを作成して下さい。なお、作成するために必要なレイアウトやフォント等に関する基本的な情報は様式砂防-9の中で記述しています。

　構成方針については、遅くとも最終年の年度当初の打合せ時に、国土技術政策総合研究所の担当部局と入念に調整して下さい。

上記成果品に係る著作権は、プログラム等の著作権を除き全て国土交通省国土技術政策総合研究所に帰属します。これらの原稿（電子形式）については、国土交通省のホームページ上にて公表します。

なお、研究課題の研究代表者等自らが、公表用資料及び成果レポートの全文または一部を複製・翻訳・翻案などの形で利用する場合には、その利用を妨げるものでありません。

ただし、研究課題の研究代表者等が研究成果を公表する場合には、事前に国土交通省国土技術政策総合研究所と協議して下さい。また、公表に当たっては、その内容が本公募で採択された委託研究の成果であることを明示して下さい。

（報告書　表紙及び背表紙の例）

令和○年度

○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発

報告書

令和○年三月

国立大学法人　　○○大学

令和○年度　○○○○を用いた○○○○○○に関する○○開発　報告書　　　令和○年三月　　国立大学法人　　○○大学

別紙砂防-V

様式作成にあたっての留意事項

記入にあたって留意頂きたい点、ミスの多い箇所を中心に以下に記載しています。提出前にご確認いただきますよう宜しくお願いいたします。

応募時の提出書類

|  |
| --- |
| 【全体に関すること】   * 規定の枚数に整合しているか。 * ○や△に適宜、数字や文字が記載されているか。   【様式砂防-1　砂防技術分野　応募様式（その１）】   * 「②技術研究開発テーマ名」は、「別紙砂防-I応募・審査書類申請票」と同一になっているか。 * 継続課題の場合は、前年度と同一のテーマ名になっているか。   【様式砂防-3　砂防技術分野　応募様式（その３）】   * 「⑪共同研究者」の欄に、研究代表者の氏名は不要です。   【様式砂防-4　技術研究開発年次計画・経費の見込み】   * 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。 * 継続課題の場合でも、初年度からの全期間の経費を記載しているか。   【様式砂防-5　研究年度（令和〇年度）の必要経費概算】   * 経費の計算ミス、単位間違い、「.」と「,」の使い方に間違いはないか。 * 研究年度（令和〇年度）の○に数字が記載されているか   【様式砂防-6　研究者データ（共同研究者全員分）】   * 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　①」にチェックがあるか。 * 「８．研究活動における不正行為への対応状況確認　②」にチェックがあるか。また、申請者氏名は適切か。（研究代表者ではなく、当該研究者の氏名を記載） |

中間評価・事後評価時の提出書類

|  |
| --- |
| 【様式砂防-7　研究概要・成果の要旨】   * 研究概要は、２００文字を目安に記載されているか。   【様式砂防-8　成果概要】   * 「③研究経費」の計算ミス、単位間違いはないか。 * 「④研究者氏名」の欄に、研究代表者の氏名等は不要です。 |